PROGRAM NOTE

南米エクアドルの東部ジャングルは年間雨量２５０ミリ～３８０ミリという熱帯低地で生物の保護指定地域になっています。その一角を占めるリモン・コチャ（レモン湖）で現地取材しました。背の高い原始林、草木、サル、鳥類、ヘビなどが生息する別天地ではじめての「ワニ狩り」の体験は圧巻でした。当時、電波新聞社発行の『ラジオの製作」に連載された＜東部シャングル・レポート＞からその興奮ぶりをお察しください。

（１９７９年８月号掲載）

■尾崎一夫先生のお話はＨＣＪＢアンデスの声の日本語放送で聞けます。

アンデスの声　尾崎一夫

■ジャングル・レポート　ワニ狩りの巻

ジャングルの日も，とっぷりと暮れ，時計も８時半をまわったところです。目の前のリモン・コチャ（レモンの木の湖）は，湖面だけを白く残して，まわりの岸辺が黒々と横たわっています。水草のしげみから，にぎやかにカエルや虫の合唱がきこえてきます。はげしい夕立があったせいか，明りといえば，たれこめた雲の切れ目から星の光が，ほんのりと人影をうつしているだけです。

これから，ワニ狩りに出かけます。岸につながれていたモータ付カヌーに乗りこみます。

カヌーの前のほうには，水先案内役のダレル少年。後のほうには，エンジンと舵をにぎるポール・モアさん。「スタート！」エンジンがうなりをあげ，カヌーは湖の中央に向かって波しぶきをけたててすすみはじめました。13才のダレル少年が大きなフラッシュ・ライトをかざして，前方を照らしだします。長いまっすぐな光の線が，右に左に湖面を走ります。ドラムカンを六つつなぎあわせその上に板をのせて作ったとびこみ台が，光の輪の中に浮んでみえました。今日の午後，ここで泳いだばかりです。

もっともワニは昼間は出てこないそうです。夜になると，岸辺や水面に出てくるので，そこをねらって強い光をあてて目をくらませ生どりにするのだときかされました。

■湖面に光るオレンジ色の宝石

「いたぞ！」という声に前方に目をやりました。黄色い光の中に，きらりと光るオレンジ色の宝石のようなワニの目。

（ここから先は，みなさんもアナウンサーになったつもりで，声を出して読んでください）

「あっ！光っています。光っています。話にはきいていましたが，ほんとうに光るのです。前方百メートルぐらいでしょうか。オレンジ色というよりは，赤い色に近い色です。今，カヌーは，やや右に舵（カジ）をとって方向を定めながら赤い目に向かってぐんぐん近づいています。強い光をあてたままです。思わず私もすわった席から体を乗りだしてしまいました。

５メートル，３メートル，２メートル，あっ！いました！　いました！　ピシャ！　せっかくワニをみつけたのですが，身の危険を感じたのか，水しぶきをあげて，水の中にもぐってしまいました。残念でした。大きなワニでしたが。

湖面いっぱいにホタルがとびかって，キラキラととてもきれいです。カヌーはバックして方向を変えると，ふたたび前進。エンジンの音だけが湖にこだましています。

今度は，左前方にみえてきました。暗闇に光るワニの目は，まるで自分から光を出しているようにさえ感じられて不気味です。この湖は，北にすすむにつれてだんだんせまくなり，湖というよりはアマゾン上流といった感じです。光の中からワニの赤目がふっと消えました。ということは，水の中にもぐったということです。

エンジンを止めたカヌーは，すべるように岸のしげみに進みます。あっ！いました！前方に。いや，すぐそこです。静かに。かなり大きなワニです。今度は動きません。じっと，カヌーの横で頭を出したまま浮いています。ゴツゴツのワニ肌が見えています。

そばにもう１頭，２頭，３頭，うわぁ！うよう

ＨＣＪＢ日本語放送
新住所：ＨＣＪＢ（日本語放送）5701 N Indian Trail TUCSON AZ 85750 USA

よしています。あっ動きはじめました。　何だか心臓がドキドキしてきました。これでカヌーのエンジンが故障してしまったらなどと，よけいな心配が頭をかすめます。

光をあてると，ワニの目がまたキラリ。ずっと動いています。つまりワニが頭を水面から出したまま，カヌーといっしょに泳いでいるということです。ピシャと波しぶきを立てると赤い目も消えます。もぐったのです。このあたりはワニのすみかに違いありません。また見えます。右前方です。しげみの根元にいるようです。こちらをじっとみています。

■ついに生どりに成功！

この付近は泳いだらこわいだろって？冗談じゃありません。ワニといっしょに泳ぐ人なんかいるものですか。エンジンを止めたカヌーは，そのまま岸につきあたりましたが，その先はジャングルが広がっています。小さなワニをみつけたので生どりにしようとしたのですが，逃してしまいました。

子供がいるということは，近くに親がいる証拠です。親がおこってくるとこわいなと考えると，またまた心臓がドキン。

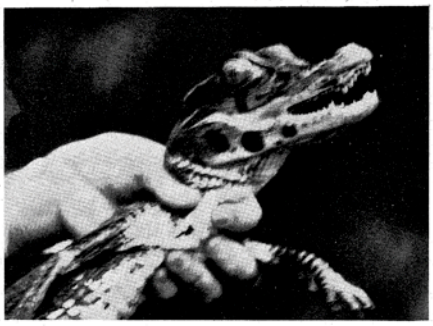
カヌーのへさきに身をかがめて，乗りだすようにしていたダレル君が，突然大きな声をあげました。つかまえたのです。ワニの子供を！　手づかみです。首すじをつかまれたワニの子は，足というよりはしっぽをばたばたさせています。

体長50センチのまだ赤ちゃんです。前足，後足ともに２本ずつ。指には水かきがあり，手でさわるとぬるぬる。

口をあけましたが，魚の白身のようで，歯は小さくてまだ生えそろっていない感じです。でも，歯の先はさすがにするどく，かまれると血が出て傷になるそうですから油断は禁物。目はドングリ目で大きく見開いたまま。ワニもびっくりしたのでしょう。

■クワッ・クワッ！これがワニの声だ！

しっぽの長さが体の半分以上ですがワニ皮のベルトにはすこし短かすぎるようです。



▲つかまえた！リモンコチャ（レモン湖）のワニ

クワッ・クワッおや，なきました。ワニが声をきかせてくれました。ウニといっているのかわかりませんが，日本のリスナーズのみなさまへ東部ジャングルからワニがなまなましいあいさつをおとどけしております。　うわぁ！またつかまえました。今度のは大きい。ティーン・エージャーでしょうか。１メートルをはるかにこえています。こんな大きなワニを直接さわったのははじめてです。おとなしいからいいようなものの，あばれたら一大事です。しっかり首すじをおさえてもらって今，私の目の前にぶらさがっています。

ワニと目と鼻の先での対面です。クワッ・クワッどこからきこえてくるのかと思うような奇妙な声ですが，間違いなくこれがワニの声です。

成育すると５メートルをこえるというワニで，今は生後６か月ぐらいだということです。カヌーの中の水がたまっているところに放してやりました。足もとでピチピチはねています。ワニさん，かみつかないでくださいよ。ワニにとっては思いがけない災難だったことでしょう。そろそろ逃してやることにします。

一頭ずつ，首すじをおさえて，つまみあげると一二の三で湖の中に同時にドブン。二頭とも，うれしそうにしっぽをふって泳ぎだし，すぐに水面からもぐって姿を消してしまいました。

雲間からもれる青い月のあかりが，ひろがっていく波紋を静かに映しだしています。

こうして，リモンコチャ湖でのワニ狩りは，夜のふけるまでつづけられていったのです。

では次号でまたお会いしましょう。短波ラジオを持っている人は放送も聞いてくださいね。

hcjb global

『サタデー・トーク』	
きき手　尾崎一夫	
毎週土曜日放送	
8月　4日	日本短波クラブ６０周年・・・会員にきく（4）
8月１１日	東部ジャングル・レポート（1）
8月１８日	東部ジャングル・レポート（2）
8月２５日	東部ジャングル・レポート（3）

『バイブル・トーク』	
東京淀橋教会　峯野龍弘主管牧師	
毎週日曜日放送	
8月　5日	人生の道しるべ　旧約聖書箴言（ソロモン王の知恵より）
8月１２日	人生の道しるべ　旧約聖書箴言（ソロモン王の知恵より）
8月１９日	リスナーからのお便り紹介番組
8月２６日	人生の道しるべ　旧約聖書箴言（ソロモン王の知恵より）

放送後の番組は、ホームページ（http://japanese.hcjb.org)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp３形式）

放送時間：日本時間午前7時半～8時　　放送周波数：　15525kHz 19mb）
（米国アリゾナ制作／オーストラリア送信）

ＨＣＪＢ日本語放送
新住所：ＨＣＪＢ（日本語放送）5701 N Indian Trail TUCSON AZ 85750 USA